

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース／川上  
綾子

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①授業内容：教員を目指す者として身につけるべき基礎的知識や理論とともに、現職教員の実践研究や彼らの問題意識等を積極的に紹介することで学校現場の実態に沿った話題をできるだけ多く提供し、理論と実践との関連づけを強化したい。また、『学び続ける教員』となるためには、学び方や思考の仕方、すなわち研究や探究の方法を身につける必要があると考える。そのような力の基盤となる内容も取り入れていきたい。

②授業方法：私自身の授業が、教授者から学習者への働きかけや工夫（例えば、学習意欲を喚起するための手だて、効果的な情報提示の方法、学習者同士の相互作用の促進等）を考える手がかりになるよう努める。また、教員採用試験の合格に必要なとされる基礎的事項については小テストを行い、知識の確実な習得を図る。さらに、上記①で述べた「研究・探究の方法」に関する力の育成に向けた授業方法も組み込んでいきたい。

③成績評価：成績評価の方法（基準や配点等）の明示、小テストの得点のフィードバック等により、評価のための評価ではなく、学生による自身の学習の振り返りや今後の学習への動機づけにつながるような評価となるよう心がける。

#### 2. 点検・評価

中間報告と同様の内容に加え、後期の担当授業では、小テストによる基礎的知識の習得の確認とフィードバック(②と③)、成績評価方法(基準や配点等)の明示(③)を行った。『学び続ける教員』になるための研究・探究の方法や思考の仕方に関する力の育成については、機を捉えてそれらの方法論等について学生に伝えるように心がけていたが、教育効果を高めるにはよりシステマティックな内容構成及び教授活動が必要になると感じた。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①教員養成特別コースの院生に対する教員採用試験対策に、積極的に取り組む。
- ②教職大学院の2年次生の異校種フィールドワーク担当者として、同フィールドワーク(実習)の円滑な実施に向け各種連携・調整に努める。また、施設担当者として、院生の学習環境をより充実させるため、専攻全体で利用する演習室や資料室の一層の整備を進める。
- ③学部学校教育実践コース3年次生の担任として、当該学生からの修学面・生活面・進路面等の相談にはすすんで応じる。

#### 2. 点検・評価

- ①コースで実施している教員採用試験対策に積極的に参加するとともに、本学の就職支援行事(教採対策ガイダンス)にも参加し、指導を行った。
- ②異校種フィールドワークに係る実務、演習室や資料室の整備等、専攻内での担当業務を遂行し、教職大学院の教育研究活動の推進に努めた。
- ③クラス担任を務めている学部学校教育実践コース3年次生や教職大学院の院生等からの相談にすすんで応じた。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①2年目となる科学研究費基盤研究(C)「UDLアプローチの援用により『個に応じた指導』を可能にする授業設計法のモデル化」の研究代表者として、初年度の成果と課題を踏まえさらに研究を進める。
- ②これまでの研究成果で未発表のものについて論文にまとめ、学会誌や紀要等に積極的に投稿することによって、成果の公開に努める。
- ③学外の研究助成の公募に積極的に申請し、外部資金の調達を図る。

#### 2. 点検・評価

- ①科学研究費基盤研究(C)「UDLアプローチの援用により『個に応じた指導』を可能にする授業設計法のモデル化」について、これまでに収集した調査データの分析とそれに基づく授業設計法のモデル化の検討に取り組んだ。
- ②The 2013 International Neuropsychological Society Mid-Year Meeting及び日本教育工学会第29回全国大会で研究発表を行った。後者について、現在、投稿論文としてまとめている。
- ③上記の科研費基盤研究(C)の研究遂行のため、今年度は他の研究助成等への応募はしなかった。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①委員として所属する委員会等(予算・財務管理委員会, 附属図書館運営委員会, 学生総合相談室アドバイザー)において, 本学の運営に貢献する。
- ②教職大学院における施設担当者として, 専攻で共同利用する部屋の整備を進め, 院生の学習環境並びに教員の教育研究環境のさらなる充実を図る。

### 2. 点検・評価

- 中間報告と同様,
- ①予算・財務管理委員会委員, 附属図書館運営委員会委員, 学生総合相談室アドバイザーを務めた。附属図書館運営委員会では副委員長を務めた。
  - ②今年度(2013年度)から始まった新カリキュラムにおけるチーム学習に対応するため, 本専攻が管理する演習室の整備を実施した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属学校の研究発表会, 授業研究会等に積極的に参加する。(附属学校)
- ②徳島県立総合大学校運営委員会委員として, 同校の円滑な運営に向けサポートする。(社会貢献)

### 2. 点検・評価

- ①附属学校の研究発表会には日程の都合が合わず参加できなかった。
- ②上述したとおり, 徳島県立総合大学校運営委員会委員, 洲本市教育委員会の研修講師を務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)